

令和5年度 大田区立大森第一小学校

学力向上のための授業改善プラン

大田区教育委員会では、学習内容の定着状況を把握し、授業改善を図ることで、児童・生徒に「確かな学力」を身に付けさせるため、「大田区学習効果測定」を実施しています。小学校では、4・5・6年生について、国語・社会・算数・理科・外国語（6年生のみ）の調査を行いました。本校ではこの調査の結果や、普段の児童の様子をもとに、授業改善プランを作成しました。

□全体計画

調査の結果と結果からの改善策

□4年

□5年

□6年

児童の様子からの改善策

□1年

□2年

□3年

□外国語

□体育

□音楽

□図工

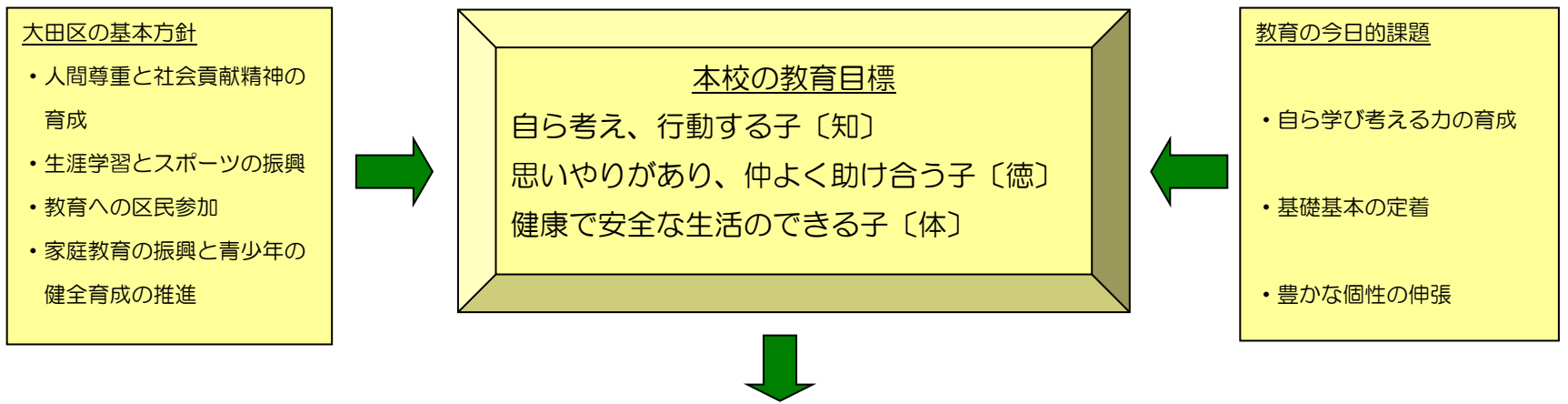
□家庭

□研究

□特別活動



全体計画



学力向上に関わる本校の経営方針

基本方針

- 教育目標の具現化が子どもの姿を通してみること、語ることができる
 1. 限りない可能性を秘めた子どものための学校づくりに努める。
 2. 全教職員の力を結集し、信頼に基づいた学校づくりに努める。
 3. 開かれた学級・学年・学校づくりに努める。

- ① 学習意欲を高める授業の創造
- ② できた喜び（例えば達成感・成就感）などの「自己肯定感」を感じられる授業の創造
- ③ 小さな事柄でも「できた」「わかった」を確かめること
- ④ 友達と交流し、かかわり合い、発表する中で、学習することの喜びを感じさせること
- ⑤ 主体的、体験的に学ぶ機会を増やし、学習の喜びを体感させること
- ⑥ 算数科習熟度別指導・ステップ学習・補習教室の推進、家庭学習の習慣化
- ⑦ 学習形態や学習集団の工夫で学習効果を高め、オープンスペースの有効活用を図ること
- ⑧ 「朝学習の時間」（ぐんぐんタイム）による基礎・基本の徹底（発達段階に応じて、系統的・計画的に）
- ⑨ 本校の授業改善推進プランの実施・評価・改善
- ⑩ 学年協働体制による学年全体と個に応じた指導の工夫・充実
- ⑪ 授業中の評価活動の工夫、評価規準、通知表等の改善

学力向上に向けての取組

- 各教科等の基礎的・基本的内容を重視するとともに、自己肯定感を高め、自ら学び、自分の考えを发表できるような学習指導を進める。
- 話し合いや教え合い等の活動を通して友達と交流し、自分の考えを深めたり広げたりするとともに、友達と学ぶことの楽しさを実感させる。
- 3～6年生の算数において、3学級4展開（5・6年生は2学級3展開）による習熟度別少人数指導を取り入れ、個に応じた指導をする。
- 朝のぐんぐんタイムや放課後の補習教室を活用し、個別の課題に対応した指導を行う。
- 読書の啓発や掲示の工夫を通して、言語環境を整える指導を行う。
- 基本的な生活習慣・学習習慣についての指導を統一し、全教職員で一貫した指導を行う。

大田区学習効果測定 調査結果と結果からの改善策

4年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→読書タイムやぐんぐんタイムなどの朝学習の時間や、国語の授業、小テストや再テストを通して、漢字や語句に関する知識技能に関する力が少しずつ伸びてきました。今後は、物語の読み取りや、考えを書いて表現する力の伸長を図ります。

社会→必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子や特色の意味などを理解する「知識・技能」の習得を目指します。

算数→少人数での算数授業など、個別の支援体制の更なる充実を図り、一人一人が分かる授業を目指します。

理科→どの領域も目標値を大幅に下回っています。光、音、電気、磁石、重さなど、科学的事象の正答率が低いので、実際に見て触って実験したり、結果から分かったことを伝え合ったりして、実感の伴う授業を目指します。

I 調査結果の概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	▼			△			≡			▼		
観点別	▼	≡	▼	▼	△	△	≡	≡	≡	▼	▼	▼
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

算数の正答率は目標値と同程度ですが、国語・社会・理科については目標値を下回りました。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに3つの観点に分けて集計した結果です。社会では、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」が目標値を上回りました。国語と社会と理科は、3観点とも目標値を下回る結果でした。

II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- 文章から読み取ったことや自分の考え、筆者の考えについて書く際には、その考えの根拠となる事例や、理由を明確にして表現できるように、指導していきます。
- 文章を書く経験を増やしていきます。「指定された長さで書く」、「内容の中心を明確にして、事実を伝える文章・自分の考えを書く」「要約して書く」など、様々な条件で文章が書けるよう指導します。また、そのための語彙を増やせるよう、他の教科との連携を図りながら学習を進めていきます。

〔社会〕

- 地図やグラフなどの資料の読み取り、データの活用力に課題があるため、身近な資料を提示し、適切に情報を読み取れるように指導していきます。
- 全体的に知識・理解に関する問題で課題が見られます。社会的事象における工夫や体制、目的などの理解が深められるような学習問題を設定し、「知識・技能」の定着を図っていきます。



〔算数〕

- 示されたデータから情報を正確に読み取る力が付くように様々な数値のグラフや表に触れ、読み取りの練習を重ねるよう指導していきます。
- 図形領域に関しては、具体物に実際に触れ、立体を捉える経験や、ICT（デジタル教材）を活用し、図形を視覚的に分かりやすく捉える経験を増やしていくようにします。作図に関しては、作図の手順を分かりやすく示し、道具を使って正確に作図できるよう個別の丁寧な支援をしていきます。

〔理科〕

- 「問題→予想→実験・観察→結果→考察」という学習過程を通して、既習事項や生活経験を伴った根拠をもち、考察する力を養うなどして、自力解決する力の育成を目指します。
- 科学的事象の規則性などの性質について、体験や生活との関連を確認するなど、実感を伴った学習によって理解を深められるようにします。
- スモールステップで学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→昨年度は、物語の読み取りや、考えを書いて表現する力に課題が見られました。物語の内容を読み取る練習を重ねたことで、今年度は目標値を上回りました。考えを書く学習については、今年度も目標値を下回ったので、練習を続けていきます。

社会→昨年度は、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子や特色の意味などを理解する「知識・技能」の習得に課題が見られました。社会的事象における工夫や体制、目的などの理解が深められるような学習問題を設定し、知識・技能の定着を図ったことで、今年度は目標値を上回りました。今後は、獲得した知識を基に考える「思考・判断・表現」の伸長を図ることが課題です。

算数→昨年度は、データの活用力が目標値を大きく下回りました。今年度改善が見られたものの、依然として目標値を下回っているので、少人数での算数授業など、個別の支援体制の更なる充実を図り、一人一人が分かる授業を目指します。

理科→昨年度は、どの領域も目標値を大幅に下回りました。実際に見て触って実験したり、結果から分かったことを伝え合ったりして、実感の伴う指導を意識し、改善が見られた項目もありましたが、依然として目標値を下回っているため、確実に基礎・基本を定着させることが課題です。

I 調査結果の概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≒：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▽：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	△			≒			△			▽		
観点別	△	△	▽	△	▽	△	△	△	▽	▽	▽	▽
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

国語、社会、算数の正答率は目標値を上回りました。理科は目標値を下回りました。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに3つの観点到に分けて集計した結果です。

- ・「知識・技能」について、国語、社会、算数は目標値を上回り、理科は目標値を下回りました。
- ・「思考・判断・表現」について、国語、算数は目標値を上回り、社会、理科は目標値を下回りました。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」について、社会は目標値を上回り、国語、算数、理科は目標値を下回りました。



II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・「文章を書く」ことに関する問題の正答率が、目標値を下回りました。
- ・指定された長さで文章を書いたり、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書いたりする学習を取り入れます。
- ・「自分だったらどう考えるか」を問い掛け、文章で表現する学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図ります。

〔社会〕

- ・「都道府県の様子」、「暮らしを支える水」、「先人の働き」、「特色ある地域の様子」に関する問題の正答率が、目標値を下回りました。
- ・地図やグラフ、文章、年表等の資料を読み取る学習活動の後に、社会的事象の意味を考えさせる学習を取り入れます。
- ・「資料から何が言えるか」、「なぜなのか」を問い掛け、自分が思考したことを文章で表現する学習活動を重視します。



〔算数〕

- ・「小数」、「いろいろな形」、「角の大きさ」、「折れ線グラフと表」、「億と兆・概数の表し方」に関する問題の正答率が、目標値を下回りました。
- ・大田区のステップ学習を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- ・「できるようになったことは何か」を問い掛け、学習を振り返る活動を通して、「できた」、「分かった」と感じることを増やして苦手意識を減らし、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図ります。

〔理科〕

- ・多くの項目で目標値を下回ったので、まず基礎・基本の確実な定着を図り、「知識・技能」の伸長を目指します。
- ・「天気」、「電気」、「動物」、「月と星」、「物の体積と力」、「物の体積と温度」、「水」、「物の温まり方」について既習事項の復習をします。
- ・アプリの活用を通して、学習して獲得した「知識・技能」を繰り返し確認することで、「知識・技能」の伸長を図ります。

6年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

- 国語** →言葉に関する問題、漢字の読み書きについては、他と比べると比較的正確率が高いです。それに対し、資料からの読み取りや、自分の意見や考えを書くことは、正確率が低いです。資料からの読み取りは、国語だけでなく横断的に学習することができます。自分の意見を述べることに関しては、発表やノート記述の機会を増やし、まずは述べる回数を増やしていくことが必要だと考えます。
- 社会** →ほとんどの観点で目標値を下回りました。特に、「世界の中の国土」という問題で、目標値を大きく下回っています。地図帳の活用を増やして取り組むなど、確実に定着させる取り組みが必要です。児童の興味・関心をより喚起するため、ICT機器を用いて画像や動画を活用したり、授業の冒頭で繰り返し取り組んだりするなど、工夫ある授業づくりに取り組んでいきます。
- 算数** →全体的に目標値を大きく下回りました。昨年度から少しずつ改善が見られたものの、依然として目標値を下回っているため、少人数での算数授業など、個別の支援体制の更なる充実を図り、一人一人が分かる授業を目指します。
- 理科** →全ての観点で大きく目標値を下回りました。その中でも「けんぴ鏡の使い方」の単元における学習の定着度が大幅に低いことが分かります。そのため、今年度の単元で、復習をしてから顕微鏡を使用する単元に臨み、単元のつながりを意識しながら学習を進めるようにします。問題解決的な学習の流れは定着しているため、理科の学習でもより丁寧に1つ1つの取組に時間をかけながら授業を展開していくようにします。
- 外国語** →ほとんどの観点で目標値を下回る結果となりました。特に英作文では、全ての問題で下回っているため、授業において英文を書く時間を多めに取り入れて文法に親しんでいく必要があります。

I 調査結果の概要

- △：正確率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正確率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▽：正確率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科			外国語		
全体	≡			▽			▽			▽			▽		
観点別	≡	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

全体的に目標値を下回っています。「知識・技能」にあたる基本的な知識がどの教科においても低いので、「思考・判断・表現」以前に、基礎的な力を養っていく必要があります。国語は、「知識・技能」が目標値と同程度なので、基礎的な力を応用的に使うことを考えていきます。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに3つの観点に分けて集計した結果です。どの教科においても、「主体的に学習に取り組む態度」が低いです。興味・関心を高める授業を展開して、学習に対する意欲を高めていくことが課題の基盤にあると考えます。

II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- 資料の読み取り、自分の意見を述べることに課題が見られるので、授業の中で資料から読み取りや意見を述べる機会を増やし、力の定着を確実に図ります。
- 既習した新出漢字や熟語などを、日常のノートや作文で積極的に活用することを通して、確かな知識として定着するようにしていきます。

〔社会〕

- 動画を効果的に活用したり、教科書の写真を活用したりすることで、関心・意欲をもって学習に取り組めるようにします。
- 基本的な知識や情報などを身に付けるために、授業の冒頭などを活用して、地名や基本的な情報など覚える時間を設けます。

〔算数〕

- 算数の対しての苦手意識を減らすために、「この授業で分かったことは何か」と問いかけ、「できた」「分かった」ことをその都度授業で確認し、児童の「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図ります。
- 大田区のステップ学習を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 習熟度別指導を充実させ、より1人1人にあった授業を展開していく。基礎・基本の定着を図ることを大切に学習を進めていきます。

〔理科〕

- 多くの項目で目標値を下回ったので、まず基礎・基本の確実な定着を図り、「知識・技能」の伸長を目指します。
- 「問題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察→新たな問題」という学習過程を通して、自分なりに考えをもち、確かめ、自力解決する力の育成を目指します。

〔外国語〕

- ALTの存在を大いに活用し、ネイティブな発音に触れることで、日本語と外国語との違いなどを聞き取ったり、似ているところに気付いたりできるようにし、外国語の学習に対する興味・関心をもちさせるようにしていきます。
- 習った英単語や文章を、歌やゲーム、書く活動を通して、楽しく身に付けていけることを目指します。



児童の様子からの改善策

1年生

1学期の成果と課題

一斉指導のもと、話を聞いて行動につなげる力、自分で判断する力が身に付いてきています。平仮名の学習を一文字ずつ音読と合わせて進めることで、丁寧に書いたり、読んだりすることができる児童が増えました。自分のしたことや思ったことを、話したり書いたりすることもできるようになりましたが、苦手意識をもっている児童もあり、個別指導を続けています。10までの数の増減を具体物の操作なしで思考できる児童も増えましたが、操作ができていても数の処理に時間を要する児童もいます。成果につながる繰り返しの練習が必要です。

国語

学年の実態

物語を読むことを楽しみ、意欲的に授業へ参加しています。平仮名を正しく読み書きできる児童がほとんどですが、拗音・促音などを含む単語や助詞「は・へ・を」を正しく表記することが難しい児童もいます。叙述から場面や登場人物の様子を正確に読むこと、順序を意識して文を書くことが今後の課題です。

改善策

仮名遣い、拗音・促音の課題については、朝のぐんぐんタイムや宿題で継続して指導を続け、正しく読み書きができるようにしていきます。物語文や説明文を読み、内容について話し合ったり、場面と場面のつながりを考えたりして、読むことを楽しみながら正確に読む力を身に付けていきます。



発表にも意欲的です。友達の話最後まで聞き、考えを繋いでいくことを大切にしています。

算数

学年の実態

1～10までの数を正確に数え、繰り上がりのない足し算・繰り下がりのない引き算を正確に計算できる児童がほとんどです。算数ブロックや指を使ったり、丸を書いたりして答えを確かめたりする児童もいます。求差・求補の計算では、文章から場面を具体的にイメージして立式することに個人差があり、正答を導き出すことに課題がある児童もいます。

改善策

タブレットドリル、計算スキル、計算カードの活用と宿題で、繰り返し計算練習を行い、正確さ、速さを身に付けさせていきます。具体物や半具体物を操作したり、図絵などを見て説明したり、視覚・聴覚・操作など様々な方法でアプローチを行います。身近なことを題材にした問題作りをすることで体験的な活動を重視して学習を進め、計算の意味を考えるようにしています。



生活

学年の実態

「見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ」の活動を楽しむことができます。自分の思いや願いをもって、活動に取り組む児童がほとんどです。一人一鉢育てているアサガオの生長に伴う変化を楽しみ、親しみをもって世話をしました。学校探検では、教室の数の多さに驚き、一部屋一部屋異なる教室に興味津々でした。見つけたことやワクワクしたことを絵と言葉で表しました。発展的な活動として、自分の発見を紹介しました。学級、学年、異学年交流を実施し、校内の人との交流を深めると共に、先生や上級生への関心を強くもちました。身近な人々とのさらなる関わりに期待をしています。

体験活動を多く取り入れ、発見や驚きから、学習を創造していく経験を積ませていきます。



改善策

活動したことや体験したことを絵や言葉(文章)で振り返らせ、気づきを明確にしていきます。個々の気づきを全体で共有し、教師が価値付けすることで、さらに意欲を引き出し、活動を深めたり広げたりしていきます。



2年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取組により、文章をはっきりと音読すること、字形の整った文字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い計算することができる児童が多くいます。異学年での交流や野菜の栽培など直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

基礎・基本が十分でない児童や人と積極的に関わることに苦手意識をもっている児童もいるため、昨年度の取り組みを継続します。基礎・基本を生かして、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを比べたり広げたりする学習の積み重ねを通して、思考力や表現力についても伸ばしていきます。

国語

学年の実態

音読カードを用いた音読練習を通して、多くの児童がはっきりと大きな声で読むことができます。登場人物の心情の変化に関しては、経験的に感じとることはできていますが、叙述を根拠にした理由を説明することは、十分ではない児童がいます。文章を書くときに、文章の構成を考えて正しく書くことに課題のある児童がいます。文字を書くことについては、字形の整った漢字を書くことができる児童がいますが、日常生活の中で習得した漢字を使って書くことをさらに指導していきます。

改善策

物語の読解に関しては、場面の様子や登場人物の心情の変化について、叙述を根拠にして考え、自分の意見を互いに交流し、捉え方の違いを認めつつ深めていきます。説明文の読解では、文章の構成（始め・中・終わり）を意識して、書かれていることを正しく読み取る力を養うとともに、教材文の構成を自分の作文にも生かします。作文は下書きや推敲の時間をとり、文章に間違いや漢字で書ける部分がないか確認するようにします。



「あったらいいなこんなもの」の学習では、あったら良いと思うものを考え、順序立てて説明することができました。



「100より大きい数をしらべよう」の学習では、数カードの操作を通して位取りの仕組みや数の構成についての理解を深めました。

算数

学年の実態

基本的なたし算・ひき算の計算処理は多くの児童が習得できています。長さの単位については、目盛りを読み間違えたり単位が混同したりしてしまう児童がいます。日常の現象を算数で学んだことと結び付けて捉えることを難しく感じる児童が多く、文章だけでは状況を正しく想像できない児童がいます。

改善策

授業では、日常の現象を算数的に読み取ることを授業の導入や終末で意識的に行い、児童の生活と算数で学んだことをつなぎ、算数を学ぶ意味を感じさせていきます。計測に関して、経験が不足していることから、生活科「野菜の観察」と関連させて長さの単位を使って記録するなど、他教科・領域で算数の技能として使い、確実な習得を図っていきます。



生活

学年の実態

人と関わることや自然に積極的に関わる児童も多くいる一方、苦手な児童もいます。自分が選んだ野菜の栽培、トウモロコシの皮むき体験、昆虫や生き物の飼育等、自然に触れることで、植物や生き物に興味・関心を示す児童が増えてきています。

今後は、町たんけんや昔遊び体験を通して、地域の方や家族との交流を増やしていきます。

改善策

1学期には、「学校あんない」を通して、1年生に伝えることや一緒に活動する経験をしました。これまでの経験を生かして、今後は異学年や地域の方との交流して、相手の思いや考えに気付いたり自分の成長を自覚したりして学びに向かう力を涵養します。



ミニトマト・ナス・オクラ・ピーマンから、自分が育てたい野菜を選びました。茎や葉、花、実などに着目しながら、世話をしました。

3年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取組により、文章をはっきりと音読すること、字形の整った文字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い、計算することができる子が多くいます。友達との交流や、生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

身に付いた基礎・基本を生かし、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを更新したりすることを通じて、思考力や表現力を伸ばしていきます。

国語

学年の実態

文章には親しみをもち、読むことはできています。しかし、その考えを支える理由や事例を説明することについては難しい様子です。また漢字の学習では、字形に気を付け丁寧に書いていますが、既習の漢字の定着までは難しく、漢字を日常で進んで使用することについても課題があります。

改善策

物語文を読む際には、中心となる語や文を見付け、叙述を基に自分の考えを説明できるようにします。更に、友達と交流の機会を設け、相手意識をもたせることで、より根拠が明確になるようにします。また、文章を書く場面では、既習の漢字を使えるように辞書を活用し、使う習慣が身に付いていくよう進めていきます。

社会

学年の実態

区の様子や、私たちの暮らしに関わる仕事に関する社会的事象を比較・分類したり、関連付けたりすることは意欲的に取り組んでいます。地図帳や写真・資料の閲覧やそれらを手掛かりにした調べ学習は、楽しんで行っています。問題解決的な学習のプロセスを理解し進めていますが、考えを表現することに課題があります。

改善策

社会的事象の「見方」について指導し、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べる技能が身に付くようにします。比較・分類、総合、関連付けといった「考え方」を働かせることができる問題を設定し、思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。振り返りを児童の言葉で表現できるように指導します。



社会科見学では、しっかりメモをとりながら話を聞く姿勢が見られました。働く人の思いや願いを感じとり、施設の人に質問をしました。

算数

学年の実態

計算の方法については身に付けることができている児童が多くいます。あまりのあるわり算では、問題文から正しく読み取り立式をすることや答えることに課題が見られます。

改善策

誤答を防ぐため、たしかめ算を行うように声掛けをしていきます。問題文において何に着目するのかを考える活動を通して、正しく式を立てたり答えたりできるようにしていきます。



理科の実験では、実際に触ってみたり、考えたことを試してみたりすることで、新たな発見を得ていました。結果からどんなことが言えるのかなど、グループで話し合いながら学習をしました。

理科

学年の実態

ゴムや風の力、音のふしぎなどの実験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、追求することへの意識が高まっています。結果から何が考えられるか、何が言えるのかといった考察する力を伸ばすことが今後の課題です。

改善策

実験や体験から得られた結果を基に、どのようなことが分かるかを話し合い、考察をまとめていきます。話形を提示することで書き方を学び、自らの考えを書けるようにしていきます。

昨年度改善プラン成果と課題

外国語を1年生から取り組むことで、外国語に慣れ親しみ、興味・関心を高めている児童が多く見られます。一方で、自分の考えや気持ちを違う言語で表現することについて、苦手意識をもっている児童も見られます。

学習テストの結果では、目標値よりも全体を通して下回りました。単語の意味や文章全体の意味を理解し、そのことに基づいて考える力を身に付けていくことが課題になっています。

	児童の様子	改善のポイント
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 授業に進んで取り組んでいる児童や挙手して発言する児童が多く見られます。 新しい言語に対して積極的に声を出して発音する姿が見られます。 外国語での交流の際にうまく伝えられず、日本語で話してしまう児童が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> より児童の主体性を高め、積極的に授業に取り組む児童を増やすための手立てが必要です。 自発的に発音をする場面や声を出して相手との交流をしてみたいと感じるための学習場面の設定や活動を考えます。 学習した単語や表現の定着を図るために、繰り返し使うような活動の工夫をします。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティの中で新たに学んだ表現を使い、進んで友達とのコミュニケーションをとる姿が見られます。 学んだ単語を基に話を聞きながらどのような内容なのかを想像しながら聞くことができます。 生活経験の中で外国語を使う機会が少なく、学習経験に差が見られます。 覚える内容が増えたことにより、苦手意識をもっている児童が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の生活の中でも外国語が多く使われていることを意識できるようにし、日常生活の中でも使える単語や文があることに気付けるようにします。 話の内容に合った挿絵などを見せながら、よりイメージをもって内容を理解できるようにします。 アクティビティなどをより取り入れ、外国語を話す機会を多く取り入れ、話すことへの意欲を高めます。 1時間の中で何を学習すればよいのかについて見通しをもって取り組めるような授業をします。

	具体的な改善策
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 学習した単語や表現をゲームなどの活動を通して、楽しみながら身に付けることができますようにします。 ALTの発音から、正しい発音の仕方を身に付けられるようにするとともに、日本語との違いについて理解できるようにします。 短い物語や簡単な対話の場面を用いて、話の概要を捉えられるようにします。 繰り返し発音することを通して、外国語を使うことに対して慣れるようにします。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ALTの発音から、正しい発音の仕方を身に付けられるようにするとともに、日本語との違いについて理解できるようにします。 生活の中で関わるものや言葉について授業の中で取り扱い、外国語が多く使われていることを知り、生活の中でも使う意識をもてるように支援します。 目的や場面設定を工夫し、児童自らが伝えたいという思いを引き出し、主体的に取り組めるように支援します。 中学校での学習との連携をはかり、学習内容やアクティビティを共有するなどしながら、授業に取り入れ、進学後も積極的に外国語でのコミュニケーションを図れるよう支援します。



体 育

昨年度改善プラン成果と課題

全 体

朝の体育朝会や休み時間、体育の授業改善など、運動に親しむ機会を多く確保したことで、学校生活全体を通して体力向上につながる遊びや運動に親しむことができました。

低学年

ルールのある遊びを多く取り入れたことやゲームを授業の中で多く取り入れたことで、きまりを守り、友達と楽しく運動することができるようになりました。


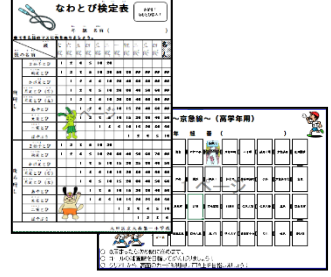

中学年

運動を楽しく行える工夫を考えたり、技能が向上する練習の場をスモールステップで設定したりしたことで、運動の楽しさを実感でき、全体の運動技能が向上しました。

高学年

運動の基礎基本（体の使い方）を確認したことで、運動に対する意識が高くなり、運動技能が向上しました。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して取り組むことができます。 運動に対して進んで取り組む児童が多数います。 運動のイメージがなかなかもてず、体の動かし方が分からない児童がいます。 身体を動かすことに苦手意識をもっている児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの遊びや多様な動きをつくる遊びを通して、基本的な体の動かし方を養います。 目指す動きを明確化（視覚化）し、段階を踏んで動きを体得できるようにしていきます。 ゲーム（遊び）を取り入れ、ルールを守ること、協力するよさを実感できるようにします。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 友達の動きのよさに気付き、協力して取り組むことができます。 運動技能に差があり、個に応じた指導の充実を図る必要があります。 屋外で活動する機会が減少しているため、運動に対して苦手意識をもつ児童が増えています。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の「めあて」を提示し、身に付けさせたい運動の特性をつかませます。 作戦を立てるなど、チームで協力する時間を設けます。 場を工夫し、個人のめあてに沿った練習ができる指導の工夫をしていきます。 技能や勝敗よりも、運動のもつ楽しさを実感できるような声掛けを行います。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために協力して作戦を立てたり、話し合いをしたりすることができます。 自分の課題にあった練習の場を選択し、技能の向上に向け努力する姿勢が見られます。 持続性・敏捷性における運動が苦手な児童が増えています。 屋外で活動する機会が減少しているため、運動に対して苦手意識をもつ児童が増えています。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に体づくり運動を授業に組み込み、体の使い方を慣れさせます。 年間を通して、体力を高める運動を授業に組み込みます。 体の動きを視覚的に示し、認識できるようにします。 体の動きを反復して身に付けさせます。 学習カードを使い、技のポイントを意識させ、目標設定をさせます。 技能や勝敗よりも、運動のもつ楽しさを実感できるような声掛けを行います。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階に応じた様々な体の動きを取り入れた体ほぐしの遊びを工夫します。 体育の学習の基本的な流れを、「めあての確認→全体練習→手本の運動を見る（児童）→ペア・トリオ学習→一人一人の力に応じた練習→振り返り」として、低学年のうちに取り組むべき運動遊びの習得を目指します。 友達の動きを見て学ぶ時間を生かしながら、励まし合い、みんなで上達していく意識を育て、協力する力を高めます。 児童が運動遊びに取り組むことができる機会を多く設定し、いろいろな動きを体験できるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 「ランニングカード」「短なわカード」など児童が1年を通して運動に興味・関心を高められるような活動を増やします。 大スポーツラリーを年間を通して実施し、児童の基礎基本的な体力を育成します。 学習カードを充実させ、運動のねらいを理解して授業に取り組むことができるようにします。 グループ活動・教え合いを通し、友達と仲良く協力して活動しようという態度を育てます。 運動の楽しさを実感できるように、ゲームを多く取り入れたり、友達と共に体を動かすよさに気付かせる等、様々な運動の楽しさに触れられる機会を設定するようにします。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、自分の力を知り、自分の課題を設定し、解決するための力を養います。 <ol style="list-style-type: none"> ①授業の振り返りを毎回の授業で行うことで、自分の学習状況や次の課題を把握させます。 ②課題を解決するために、練習の場を自分で選んだり、工夫することを決めたりして思考力を養います。 朝の時間や休み時間に、向上心を持ち、児童自身が工夫して取り組んでいけるような運動の場を設置し、日常的に運動に親しみ、楽しみながら体力向上に励む児童を育てます。 運動の楽しさを実感できるように、ゲームを多く取り入れたり、友達と共に体を動かすよさに気付かせたりと、様々な楽しさに触れられる機会を設定するようにします。 	




昨年度改善プラン成果と課題

低学年：音楽活動に興味・感心が高い児童が多く、歌唱やリズム打ちに意欲的に取り組む姿勢が見られました。

中学年：歌唱や器楽演奏に意欲的に取り組みました。鍵盤ハーモニカやリコーダー奏の他、いろいろなリズムをつくり、演奏する活動を通して、主体性を育むことができました。課題は、①一人一人が思いや意図をもって、演奏表現を工夫すること、②記譜の活動を楽しく行うこと、です。

高学年：合唱や器楽合奏に積極的に取り組み、行事や学年発表等で、きれいな音色を響かせて自信をもって演奏することができました。課題は、①互いのよさを取り入れて豊かな演奏表現につなげること、②旋律づくり等、音楽づくりの活動にもっと親しむこと、です。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 歌や楽器に興味をもち、意欲的に音楽活動に取り組もうとする児童が多く見られます。 拍の流れにのって歌ったり演奏したりする活動を通して、友達と合わせる力や、互いの歌声・楽器の音色を聴こうとする力が育っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間配分を工夫し、児童が楽しく授業に取り組めるようにします。 自然で力みのない声と正しい音程で歌えるよう繰り返し指導し、鍵盤ハーモニカの正しい運指やタンギングをしっかりと身に付けるよう一人一人の個別指導にあたります。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 明るく元気な声で、強弱を生かして、のびのびと歌うことができます。 3年生は、打楽器や鍵盤楽器の他、リコーダーの演奏に、意欲的に取り組んでいます。 4年生は、打楽器の音色の特徴やリズムを生かして、拍にのり、表現の工夫をしながら、リズムアンサンブルを演奏することができます。 階名唱したり、リズムを手拍子したりして楽曲の特徴をつかみ、進んで歌や器楽演奏に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 打楽器のリズムを即興的に演奏する、ドラムサークルの活動を通して、拍感や音楽性を養うと共に、他者を聴き、自己を尊重する態度を養います。 音楽活動の中で、音の高さやリズムについて、実感を伴う理解に繋がるよう、指導します。 自然で無理のない、よく響く明るい声で、いろいろな歌を楽しく歌えるよう発声指導します。 小さなつまずきを見逃さず、必要に応じて、休み時間等に個別指導を行います。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 柔らかな響きのある声で、旋律の特徴を生かし、気持ちを込めて歌うことができます。 重なり合う聴きを聴き合いながら、音量のバランスに気を付けて、リコーダー2重奏をすることができます。 曲想の変化を感じ取り、表現の工夫をしながら、演奏に取り組んでいます。 合奏や金管鼓笛合奏に関心があり、友達同士教え合い、励まし合いしながら、演奏に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や器楽におけるつまずきを把握し、発達段階や個に応じた指導を行います。 主体的、協働的に演奏に取り組めるよう、活動形態を工夫したり、教材を工夫したりします。ICTを効果的に活用して、指導を行います。 音楽づくりの活動を取り入れて、音楽をつくり出す喜びを味わうと共に、読譜力を養います。 大小に関わらず、発表の機会を多く設けて発表を行います。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす活動を取り入れ、リズムや拍感を身に付け、楽しみながら歌ったり演奏したりできるように指導します。 授業の中で様々な学習形態（ペア・グループ活動等）を設定します。 タブレットを活用して、リズムや旋律を作る活動を取り入れ、楽しみながら音楽づくりをする態度を身に付けます。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーでは、児童が進んで取り組むことができるよう、平易な作品を多く扱います。運指や音色について、細かく机間指導します。 楽しく練習を行い、ペアやグループになって演奏を聴き合う機会を増やします。 打楽器に親しみながら、リズムを即興的につくり、拍にのって演奏する、ドラムサークルの活動を定期的に行い、音楽性と主体性・協調性を育みます。 音の高さやリズムを感じて歌ったり演奏したりする活動の他に、ICT教材を工夫して記譜を指導し、音符や音楽記号に親しみ、演奏表現に生かしていこうとする態度を身に付けます。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、腹式呼吸を用いて頭声発声指導を行います。高音が出しにくい児童には、胸声発声も取り入れ、オクターヴ下を歌う等、発達段階や個に応じた無理のない指導を行います。ハーモニカの美しさや強弱表現のよさ、面白さを味わわせながら指導します。 合奏では、楽器の演奏方法や楽器パート毎の役割について学びます。友達と協働して表現の工夫を行う中で、豊かな演奏や音楽を愛好する態度へつなげます。 ICTを活用して、読譜力や表現力を養います。 グループで音楽をつくる活動を行い、発表の機会を設けて発表を行います。 	

図画工作




昨年度改善プラン成果と課題

低学年：日常的にはさみ、のり、絵の具セットなどの基本的な用具の使い方を指導し、造形活動への意欲・関心を高め、楽しみながら活動することができました。意欲を維持しながら、引き続き指導していきます。

中学年：児童が楽しいと感じたり、面白いと思えたりするような工夫をしたことで、造形活動に意欲がもてるようになりました。展覧会や授業で鑑賞活動を行い、作品のよさや面白さを見付けることができました。活動ができない児童やねらいを達成できない児童がいるため手立てが必要です。

高学年：大型ディスプレイで手順を映したり、細かく板書したりすることで、自ら考えて活動を進めることができるようになりました。さらに自ら考え、判断しながら活動を進めることができるようにしていきます。

	児童の様子	改善のポイント
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲をもって楽しみながら活動しています。 題材に応じて、想像力豊かに造形表現することができます。 自分や友達の作品から面白さやよさを楽しんでいます。 早く完成させてしまい、それ以上作品の工夫や改善をすることができない児童がいます。 道具を正しく扱うことができます。 材料の特性や仕組みを生かし、想像力豊かに表現することができます。 こだわりをもって制作し集中して最後まで作業をすることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態や季節に合わせた題材を設定し、児童の意欲をさらにもたせます。 児童がイメージをふくらませやすいように、多様な資料や材料を用意します。 より自分の作品に対して愛着がもてるような導入の仕方や友達の工夫を見せながらより満足感のもてる作品ができるようにします。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲が高く、つくることや表すことを楽しんでいきます。 友達の作品に関心をもって、自他の違いや発想のよさや面白さに気付きながら、鑑賞しています。 発想が浮かばず、描くことやつくることのできない児童がいます。 目の前の楽しさを追求するあまり、授業のねらいから逸脱してしまう児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き造形への意欲を高められるように学習の導入を工夫します。 ワークシートを用いながら見る視点を定め、発想や表現、自他のよさに気付けるようにし、自分の言葉で表現できる活動を行います。 鑑賞活動をして、様々な表現を知り自分の表現活動を広げられるようにします。 ねらいをしっかりと伝え、その都度声をかけながらねらいを達成できるようにします。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動に関心をもち、作品が完成するまで根気よく取り組むことができます。 客観的に自分の作品を見つめたり、作品のよさや違いを感じ取ったりしています。 根気よく継続してつくり続けたり、描いたりすることができず、飽きてしまう児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分らしさを生かした活動ができるようにするために、選択の幅をもたせるようにします。 ワークシート等を用いながら、鑑賞活動を行い、自分の考えをもたせるようにします。 題材設定の工夫や友達の作品を見せたり、参考作品を例示したりしながら意欲を継続させます。

	具体的な改善策
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 紙、粘土、はさみ、のり、ホチキス、カッターナイフなど基本の材料や用具を、年間を通じて楽しく、正しく、安全に使用できるように指導計画を作成します。 活動の参考になるような写真や資料などを豊富に用意し、意欲を高めます。 友達の作品のよいところを見つけ、伝え合う活動を通して、自分の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の時間を設定します。 児童にとって親しみのある名前を付けたり、身近な材料を扱ったりして、描くことやつくることの楽しさを味わわせながら、造形活動への満足感を高め、粘り強く作品をつくるようにします。 
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じて年間計画を立て、導入では、児童が楽しいと感じたり、面白いと思えたりするような工夫をして、造形活動に意欲がもてるようにします。 ワークシートを用いて、友達の作品からよさや面白さを造形的な視点を定めて、児童がその視点に鑑賞できるようにし、自分の言葉で書いたり、発表したりできるようにします。 友達の作品を見る機会を増やしたり、身近な造形作品を鑑賞したりすることで、多様な表現に気付かせ、自分の表し方を広げられるようにします。 毎時間ねらいを設定して、手順を板書し、可視化できるようにします。またこまめに声をかけながら進み具合を確認します。 
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 今まで経験した材料や用具を再度扱うことで、描くことやつくりたいことに合わせて、自分で考え、取捨選択できるようにします。 見る視点を書いたワークシートを記入させ、自他の違いや工夫を見つけ、尊重することで、鑑賞の能力を育みます。 愛着をもてるような題材設定の工夫をしたり、鑑賞活動を通して友達の作品を見たり、教科書や参考作品を例示したりしながら活動への意欲を継続させます。 



昨年度改善プラン成果と課題

児童が、家庭科で学んだことを自分の「仕事」として家庭の中で生かして、実行する姿があります。調理実習では、完全に全工程を一人で取り組む形で実習したことで、基本的な技能は身に付きました。裁縫学習では、実物見本や、視聴覚教材を示すことで、各自の作品を計画して完成させることができました。細かな作業の理解や実施には差が生じるため、個々の児童に応じた手立てが必要です。

	児童の様子	改善のポイント
5年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事に興味をもち、意欲的に学習や実習に取り組む児童が多くいます。 家庭での調理経験がある児童は比較的少なく、初めて包丁を扱う児童が半数程度います。また、裁縫経験のある児童も少なく、家庭科で初めて針を持つという児童がほとんどです。 家庭にIH調理機が広く普及してきており、ガスコンロを使えない児童が増加傾向にあります。ガスコンロを使って、ガス栓の開け閉めから“調理の基礎”について教えていきます。 話し合い活動の際、自分の考えをすすんで発表できる児童が多くいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し練習させることで技能を着実に身に付けさせ、全員が自信をもって実習に取り組めるようにします。基礎的・基本的知識及び技術の定着を図り家庭や地域での実践に活かせるようにします。 用具の正しい名前と安全な使い方を繰り返し指導します。必要に応じてICTを用いて、児童の理解を促します。大型テレビも活用し、実習の手順や手元の動きが全員に見えるようにします。 全員にガスコンロの正しい使い方を確実に身に付けさせ、換気等を含めた火気を取り扱う際の注意点も指導します。 相手意識をもった言語活動を充実させていきます。また、これまでの経験や情報で予想できることはないかを考えさせていきます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫や調理のできることを増やし、自信を高め、意欲をもって活動する児童が多くいます。 自分の考えを発言する際、これまでの学習や家庭での経験を踏まえて説明できる児童が増えました。 活動の振り返りを行うと、自分の考えを発言したりタブレットのシートに入力できたりするものの、ワークシートやノートへ書くことになると、書かずに済ませてしまう児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって計画的に取り組むことを重視して指導します。内容によって様々な活動を行います。 児童の学習や生活経験を大切に、他教科での学習も意識的に結び付けながら、要点や理由を明確にして説明する表現力を育てます。 今後も家庭と連携しながら、児童の家族の一員としての役割意識を高め、仕事として家事に取り組む力を育てます。

	具体的な改善策
5年	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の場面や相手を想定して、学習課題に取り組みさせていくことで、より自分のこととして捉えていかれるようにします。 安全で衛生的な調理の仕方を一緒に考えて、指導していきます。実習前の調理計画の立て方を段階的に指導し、食材や調理法に合った手順や用具を考えられるようにします。 裁縫実習は、製作過程が段階的に理解できる教材・教具を取り入れます。また、自らが活用できる作品を製作し、児童が作品に愛着をもって、完成に向けて意欲と技術を高めようとする学習にします。 消費・環境の学習「生活を支えるお金と物」や、持ち物の片付けの学習「整理・整頓で快適に」を通して、児童が環境や物や金銭について見つめ直す学習をします。特に、自分の持ち物への所有感や愛着、家族への感謝の気持ちを高めます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の場面を思い起こして、学習課題に取り組みさせていくことで、より自分のこととして捉えていかれるようにします。 スクールタクト等を利用して学習の振り返りをする中で、自分の生活をよりよくしようと考える力を養っていきます。 生活環境を考える学習として手洗いで洗濯実習や、掃除の実習に取り組ませて、日常生活にも活用できる知識を身に付けさせていきます。 裁縫実習では、ICTなどを利用して、安全な器具・用具の使い方の写真や動画などをいつでも確認できるようにします。 中学校との内容のつながりを意識します。継続して学習するもの（例えば、調理用具の扱い方やミシンの扱い方）は、小学校段階で確実に習得するものを明示し、意図的に練習ができる教材を選定します。



研究

昨年度改善プラン成果と課題

平成30年度から令和2年度まで、東京都教育委員会及び大田区教育委員会の教育研究推進校として、ESDについて研究をし、研究発表を行いました。総合的な学習の時間と生活科を中心に、地域を教材にすることや、児童が自分ごととして学ぶことなどを重視し、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組むことができました。

令和3年度から4年度まで、教科教育の中で、児童の問題解決能力を育成することを課題意識として、理科及び生活科について研究をしました。児童の問題解決能力の育成のための指導方法について、より具体的で、日常の授業改善に生かせる成果を出したいと考えました。そこで、問題解決の学習過程のうち、考察場面に絞って指導方法を研究することとしました。研究主題は「問題解決的な学習の充実を図る指導の工夫 ～理科、生活科の考察場面の指導を通して～」としました。事前模擬授業を行い、児童の思考の流れを体験的に理解し、授業改善に生かすことができました。研究授業及び協議会では、「発問」、「学習活動」、「教材」、「評価」の4つの視点から授業を検討、分析し、日常の授業改善に生かせる成果を獲得することができました。昨年度は、新たに、シグソー学習の手法を用いた協議を行ったことで、協議の質を更に高めることができました。

成果物として「校内研究だより」を発行し、本校の研究の取組について、保護者の皆様にも発信しました。

今後は、本校の児童に求められる資質・能力の育成のために、新たな研究主題を定め、教員の授業力の向上を図っていきます。



新教科「おおたの未来づくり」についての理解を深めるために、講演を聞きます。

研究主題

よりよい未来を実現するための創造的な資質・能力の育成
～地域と連携し、自分ごと化できる「おおたの未来づくり」の単元デザイン～

研究主題設定の理由

研究対象とする教科について

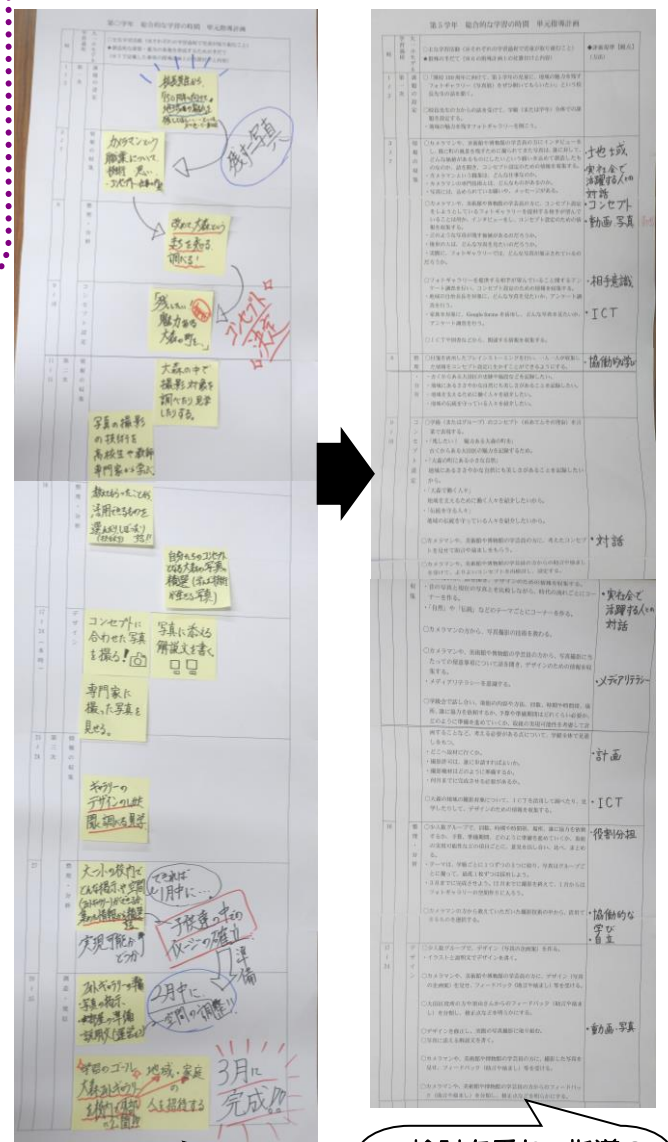
大田区は、令和7年度から、小学校全校の第5学年及び第6学年において、「創造的な資質・能力」を育成する新教科「おおたの未来づくり」を導入します。そこで今年度は、全面実施に向けて、カリキュラム・デザイン（開発）を目指します。令和6年度には、今年度にデザインした単元について、カリキュラム・マネジメント（改善）を行い、令和7年度の本格実施に備えます。

地域との連携について

本校は、令和6年度に開校150周年を迎えます。これまで大切にしてきた地域とのつながりを、より意識する機会としたいと考えています。そのために、地域の企業や団体、区役所などとの連携を図ります。

自分ごと化について

これまでのESDの研究で培ってきた地域への発信や参加の視点を生かして指導します。そのために、児童が「今、自分にできること」を考える学習を大切にします。



本校独自の学習過程「大一小モデル」を基に、学習のストーリーを考え出します。

検討を重ね、指導の手だてを書き加えながら、より具体的な単元計画に仕上げしていきます。

研究の方法

1学期には、講師を招き、新教科「おおたの未来づくり」についての理解を深めます。その内容を踏まえ、本校独自の学習過程「大一小モデル」を開発します。さらに、学年部会ごとに「大一小モデル」を基に、単元計画の素案を立案します。学習指導案を作成するに当たって留意すべき点について「大一小で大切にしたいこと」として一覧にまとめます。また、連携したい地域の企業や団体、区役所などに連絡をとって協力を依頼します。

2学期には、学年部会ごとに、学習指導案を立案し、授業研究を通してより有効なカリキュラムとなるようにブラッシュアップさせます。地域の企業や団体、区役所などと連携した具体的な取組について記録を残し、次年度以降にも指導に活用できるようにします。

よりよいカリキュラムとなるように、学年を超えて意見を出し合います。



特別活動

たてわり班活動（異学年交流）を通して

たてわり班活動では、それぞれの学年がめあてをもって活動に参加することで、自分の役割を自覚し、意欲をもって活動に取り組めるようにしています。上学年は、下学年に対して優しく接したり、一緒に行く遊びを計画したりする中で、上学年としての自覚や、学校をよりよくしようという意識が芽生えます。自分たちの計画で下学年たちが楽しそうにしたり、下学年から感謝の気持ちを伝えられたりすることで、さらにその意欲を強め、自己肯定感を高めています。下学年は、そのような上学年たちの姿に憧れをもち「いつかは、先輩たちのように学校を引っ張っていきたい」と、意欲を高めています。また、自分たちにできることを一生懸命考え、取り組むようになり、リーダーとしての素地を養うことにつながっていくと考えています。

なかよしタイム

なかよしタイムは、6年生が下学年とでも仲良く楽しく遊べる内容の遊びを考え、活動内容を計画しています。定期的に集合して関わることで、より早くお互いの顔を覚えることができます。それにより、普段から上学年や下学年を意識するようになり、なかよしタイム以外でも、お互いに声をかけあったり、遊んだりしている様子が見られます。回を重ねるごとに、上学年は役割を意識した活動ができるようになり、下学年は、上学年の姿を見ながら友達との関わり方を学ぶことができます。



昼のなかよしタイム

今年度は、学期の最後に「なかよしタイム」よりも長い時間たてわり班で遊びを行う、「昼のたてわり班活動」を設定しました。給食後、昼休みの時間（25分間）を利用し、活動します。

6年生は、時間の中でみんなが楽しめるように、いくつかの遊びを考えたり、準備をしたりしています。このように、自分たちで計画・運営することで、上学年としての自覚を育てたり、自己肯定感を高めたりできると考えています。下学年は、上学年の姿を見て関わる中で「こんな高学年になりたい」というイメージをもち、自分の成長につなげていくことができます。



兄弟学年清掃

1・6年生、2・4年生、3・5年生を兄弟学年とし（4～6年生が上学年、1～3年生が下学年）、毎週1回、ともに清掃活動を行っています。上学年が手本となり、清掃の仕方を教えたり、協力して活動することの大切さなどを、身をもって示したりしています。上学年には、学校のリーダーとして働く意識を育むこと、下学年には、上学年を信頼・尊敬し、見習おうとする態度を育むことをねらいとしています。



委員会活動

各委員会が大森第一小学校をよりよい学校にするために、日々の活動を振り返って話し合ったり、できることに取り組んだりしています。

委員会活動は、1年間を通して同じ委員会に所属しています。1年間を見通した内容を考えることができ、様々な活動を進められるようになっていきます。

毎日交代で行う常時活動だけでなく、季節や行事に合わせて、ポスターや朝会で呼びかけるような特別な活動等も行っています。さらに委員会ごとに、学校のためにできることは何かを考えながら、活動を進めています。



クラブ活動

クラブ活動では、同じ目的や目標をもって興味のある活動に取り組みます。活動を重ねていくと、新しいことへ挑戦してみようという意欲をもちたり、活動に対して自信を付けたりすることができます。6年生は、4・5年生が楽しく、意欲的に活動できるように、日々活動計画を立てて、積極的に取り組んでいます。4・5年生は、6年生の手本となる姿を見て、できることから始めようとするなど、他学年で交流し合う姿が多く見られています。



学級活動

「学級会カード」や「司会台本」を活用し、学級の友達と話し合ったり、話し合っただけの内容を実践したりすることで、自治的・主体的な態度を育てています。学級会の議題は、時期や季節に合わせたものや、担任や子どもたちから挙がった学級で話し合う必要があることなど、様々な内容があります。

たてわり班集会（令和5年度）

今年度は、「大森ふるさとの浜辺公園」でたてわり班集会を行う予定です。たてわり班ごとに、「お城」というテーマで、砂の造形遊びをします。6年生がデザインを考案し、班のみんなで形にしていきます。広い砂浜で、たてわり班ごとに、仲良く力を合わせて作品作りをします。

「なかよしタイム」「昼のなかよしタイム」そして、「たてわり班集会」と、活動の幅を徐々に広げ、深めていくことで、自分たちにできることを一生懸命考えたり、活動に取り組む力がついたりするようになり、さらに自己肯定感を高めることにつながっていきます。

